

## 海第十七号の作品について

海のホームページには、「ニュース」のコラムを設け、海の作品に対していただいた批評や感想などの内容の要旨を掲載し、同人個々の参考になるようにしています。

第十七号（通巻第八十四号）の作品に対しお寄せいただいた感想などの一部（抄）を、左記に掲載させていただきます。

ご意見をいただいた各位（お名前は略）に、心から感謝申し上げます。

### ◇エッセイの部

井本元義「あちらこちら文学散歩（第四回）」

・きちんとした文学作品として読ませてくれる。

### ◇詩の部

笹原由理「音楽会」ほか

- ・ほほえましい、よい作品である。
- ・いつも作者の身を思い、安堵したり心配したりする。

有森信二「白い蝶」

・人生の抱える労苦について、考えさせられた。

### ◇翻訳の部

牧草 泉「街の女マギー」 「種の起源」

・いつも楽しみにしている。

### ◇小説の部

高岡啓次郎「斎場の雨音」

・心象風景と実際の風景の、対比の描写が生きている。

・一気に読ませる。人間関係が上手に交錯し、カタルシスを引き出す。

・心象風景をきめ細かに、リアルに描き、この作者の代表作とでもいえるべき内容である。

赤木マリオ「ボクがマイケルだったころ（二）」

・ゲーム感覚の変身物語であろうか。

有森信二「水際」

・水を題材にして新鮮である。  
・テーマが絞り切れていない。茫漠とし過ぎている。

・五十枚ほどにまとめ、最後まで丁寧に書く必要があるのではないか。

牧草 泉「奈津子と父の関係」

・進化論を絡ませた、面白い物語を構築している。

・父と娘の「血の繋がりに」による憎悪と愛情の、二律背反の関係を上手く描いた。

中野 薫「鏡」

・家族のありようを考えさせられる、面白い作品である。

井本元義「ある弁護士の手記」

・母子相姦を描くのであれば、もう少しリアルさがほしい。

・引き込まれていくだけに、短編らしい切れ味の鋭さがほしい。

### ◇海全体の部

・全国水準以上の誌として読んだ。  
・良質の作品が並べられている。

・手元に届く誌では、よい部類の誌として評価したい。

・毎号、これだけの内容を編集・発行するという苦労を察する。

（まとめ・有）